

共生へのまなざし

ともいき

なぜ、生物多様性なのか？

應典院

コミュニティ・シネマ・シリーズ
Vol.16

2010年10月11日から、愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)。現在、日本の生物多様性には3つの危機が直面しているとされています。まずは人間活動による生態系の破壊、種の減少・絶滅、そして里地里山など人間の働きかけの減少による影響、さらに外来生物などによる生態系の攪乱。これらの3つの危機に加え、地球温暖化の進行によって、種の2~3割で絶滅リスクが上昇する傾向にあると言います。こうした状況に対し、「地球規模生物多様性概況第3版(GB03)」では「生物の絶滅は、飛んでいる飛行機からネジが1本ずつ抜け落ちていくイメージ」とも警鐘を鳴らします。そこで今回、「地球交響曲~ガイアシンフォニー」の第1作と最新作、そして生物多様性の「ホンネ」に迫った本の著者を招き、<つながり>の中で生きる、私たちの<いのち>の物語に迫ります。

「もし、母なる星地球(ガイア)が本当に生きている一つの生命体である、とするなら、我々人類は、その“心”、すなわち“想像力”を担っている存在なのかもしれません」と、地球交響曲の監督・龍村仁は書いている。国際生物多様性年の今年、私たちは、ガイアに溢れる生命にどこまで想いを馳せることが出来るだろうか？ いま、私たち人類の活動が、多くのいのちとその環境を奪い、自分たちの首をも絞めようとしている。しかしそれでも、私たちは最後まで、ガイアの“心”であり続けたい。

13:00~ 地球交響曲第一番 (上映版・1992年・127分)

15:20~ トーク (80分)

17:15~ 地球交響曲第七番 (2010年・126分)

トークゲスト: 関口威人さん

(『ぼくたちは何を失おうとしているのか: ホンネの生物多様性』著者)

1973年、横浜市生まれ。名古屋市在住。早稲田大学大学院理工学研究科(建築設計)修了後、中日新聞社入社。2008年9月に独立。フリージャーナリストとして防災、災害救援、環境、科学技術、建築、自衛隊、育児などをテーマに走り回る。また、名古屋市に拠点を置く災害NPO「レスキューストックヤード」の非常勤スタッフとして活動記録・情報発信などを担う。Twitterのアカウントは@sekiguchitaketo。



聞き手: 弘本由香里さん

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所研究員)

2010.10.10(日)
應典院本堂ホール

(543-0076 大阪市天王寺区下寺町1-1-27)

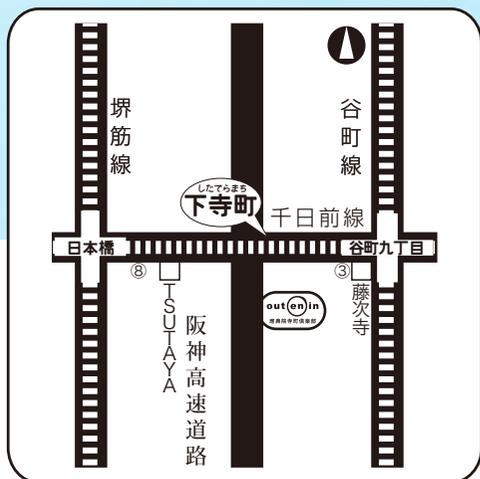
駐車場がございませんので、公共交通機関のご利用を。
下寺町交差点より南へ100m、東側です。

▼谷町九丁目駅 (地下鉄谷町線)

③番出口より西へ徒歩6分

▼日本橋駅 (地下鉄千日前線・堺筋線・近鉄)

⑧番出口より東へ徒歩5分



【参加費】一般 1,200円(一日通し券・1800円)

寺町倶楽部会員・学生 1,000円(一日通し券1,200円)

<トークのみの聴講は500円>

【申込み】オンライン予約 <http://uemachi.cotocoto.jp/event/44517>

あるいは事務局まで(お名前・人数・鑑賞作品をお伝えください)

【問合せ】應典院寺町倶楽部 E-mail info@outenin.com

TEL:06-6771-7641 FAX:06-6770-3147

【主催】應典院寺町倶楽部 【共催】NPO法人 環境情報ステーションpico

【助成】上町台地マイルドHOPEゾーン協議会